

いきものふれあいの森 通信

2025.9.11 第10号



9月に入ってもまだ暑さが続いています、朝方には秋の虫の声も聞かれるようになりました。今回は「夏と秋」のご紹介です。

「夏」とは、先月号で掲載した〈森の里広場〉のヒマワリです。花芽が出始めた時にシカの食害で全滅かと思いきや、今や満開となっています！（花は強し！）ここには3種類のヒマワリがあり、先ずは代表的な「ロシアひまわり」。大きくて一番背の高いのは280cmもあり、花びらも20cmもあります。



背は低く120cm位で、花びら5～8cmで朱色が目立つのが「メキシコひまわり」です。



そして、本数は少ないのですが、背は140cm位で6～9cmの花びらが八重になった「サンゴールド」です。



「ゴッホのひまわり」もこのような八重のひまわりが描かれていますね。

ヒマワリは中旬までは見られると思います。また、畑の並びにはコスモスも咲いていますので〈森の里広場〉へいらして下さい。

「秋」はトンボです。「松本市山と自然博物館 学芸員内川氏」より寄稿いただきました。

「あかとんぼ」の童謡で知られるように、水田が身近にあった日本人にとって、トンボの仲間はとても身近な昆虫のひとつです。

「あかとんぼ」が示すトンボにはいろいろな種があり、
①秋に平地で多くみられる赤いトンボ・アキアカネ
②アキアカネと分類的に近いトンボたち(アカネ属)
③単に体が赤いトンボ

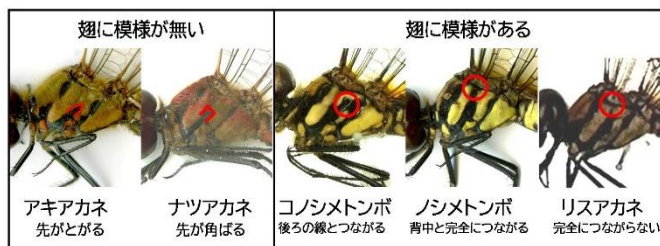
②のトンボは日本では21種、松本市では13種確認されています。アルプス公園ではそのうちの6種が観察できます。



写真は成熟して赤くなったオスのもので、特徴から次の表のように分けられます。

		体の色		
		尾(腹)だけ赤い	頭や胸まで赤い	茶色っぽい
翅の模様	ない	アキアカネ マユタテアカネ	ナツアカネ	
	ある	リスアカネ	コノシメトンボ	

成熟する前のオスや赤くならないものもいるメスもいるため、確実に見分けるには、胸部の黒い模様や腹の先端を比べるので少し難しいです。



※マユタテアカネはオスメスともに顔に眉のような黒い模様があります。

またアカトンボの仲間ではないですが、似ているウスバキトンボがたくさん飛んでいます。

〈森の入口広場〉前の池には全身真っ赤なショウジョウトンボがいることもあります。

もしかしたら今回紹介した以外の「あかとんぼ」も公園にいるかもしれません。

見かけたら、ぜひご報告ください！

また、「夏に見たジョウビタキ！」を「小鳥と小動物の森 樋口氏」より寄稿いただきました。

※冬の成鳥（オス）



ついに本年、アルプス公園内でジョウビタキの繁殖を初確認しました。寒い季節になると家の軒下などで尾羽を振りながらチッチッと地鳴きを繰り返している姿が印象的な冬鳥です。本来であれば3月末から4月にかけてロシアなどへ渡り、そこで繁殖をするはずなのですが、近年日本で繁殖している例が確認されました。松本市でもしばしば夏のジョウビタキが目撃されていましたが、ついにここアルプス公園でも繁殖し始めたようです。

6月、さくらの森広場にて幼鳥を初めて確認しました。そのあともしばしば目撃しましたが、大抵は幼鳥一羽きりでした。身体全体に星屑のような幼鳥特有の模様が散らばっています。背中にある紋付き袴の白い斑点は、幼鳥のうちから健在のようです。

＊6月の幼鳥



8月頃になると、数羽でまとまって行動しているところを目撃するようになりました。最近では動物園内に4羽ほどが生息しているようです。本来縄張り意識が強いジョウビタキなのですが、幼鳥の時は皆でまとまっているのが可愛らしいですね。

そして面白いのが、幼鳥だけではなく、成鳥オスの見た目の個体も交じっているように見受けられることです。これは幼鳥の成長スピードが速く、既に成鳥の羽根に生え変わっているのか、それとも年2回繁殖するジョウビタキの幼鳥たちが、生まれたタイミング関係なく皆で集まっているのか、はたまた本当に成鳥オスが混じっているのか…？

まだまだ観察していく必要がありそうです。

以上

伝言板

秋の自然観察会

- ・場所 アルプス公園内
- ・日時 9月15日(月祝)
9:30~11:30
- ・対象 小学生以上の子どもと保護者
- ・定員 15人
- ・申込 9/6(土) 9時から電話にて
詳細は「山と自然博物館」にご確認下さい。

TEL 0263-38-0012